

新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

会 長 橋本正巳
 新潟県山岳協会
 上越市南城町2-3-37
 TEL 025-524-7215

事務局 稲田春男
 上越市柿崎区百木1023
 TEL 0255-36-3958

編 集 新山協ニュース編集
 委員会代表 諏訪恵一
 TEL 0258-35-4373

年「頭」の「ご挨拶」

新潟県山岳協会会長

橋 本 正 巳



新年明けましておめでとうございます。

加盟山岳団体の皆様におかれましてはそれぞれ良いお年をお迎えのことと存じます。また、日頃は協会行事に意欲的にご参画いただき心より厚く御礼申し上げます。昨年(「災」と言う漢字が選ばれました)の漢字はまさに昨年(「災」と言う漢字が選ばれました)の新潟県を象徴するものでありましよう。

7月には三条中之島見附を中心とした7・13水害、追い討ちをかけるように10月23日

の新潟県中越地震、そして最後にスマトラ島沖、マグニチュード9の大地震でありました。「終わり良ければ全て良し」というわけには参りませんでした。年が明け19年ぶりの豪雪、踏んだり蹴ったりであります。協会と致しまして、県が企画いたしました「雪掘りボランティア」に参画し、ご協力申し上げておるところで御座います。

江戸期の俗語に「雨は降り出す 屋根の薪々濡れる 背中で餓鬼ヤ泣く 飯々焦げる」というのがあります。要はもういい加減にしてくれ、如何にでもしやがれという気持ちを表しておるのですが、この心情は私ども県民の気持ちでありましよう。

新潟県中越地震に際しましては、兵庫県山岳連盟そして

富山県山岳連盟よりお見舞いを頂きました。また日本山岳協会の新年会の折に、新潟県の皆様にと言うことで見舞金を預かってまいり、日本赤十字社にお届けいたしました。ご報告をさせていただきます。

振り返って昨年の協会の行事を見てみますと、7月には7年越しの念願であるチャジャシマ峰I峰の輝かき登頂がありました。未踏の聖域を世に知らしめたことは、岳界のビッグニュースであります。8月には新潟県山岳協会念願のクライミングウォールを、新潟県と新潟県体育協会のご協力を頂き、十日町総合体育館に設置することが出来ました。設置に際し加盟山岳会の皆様には多大な浄財をご喜捨頂き、深く感謝申し上げます。

9月には第7回新潟カップが妙高村で開催されました。クライミング委員会、国体委員会、ジュニア委員会を始め、関係者皆様の地味な活動が実を結び、かつてない43名の参加を見ました。64国体に向け、大きく始動した感触を感じております。10月には埼玉で国体が開催され、少年女子が5

位に入賞いたしました。10月23日に発生した新潟県中越地震のさなか、しかも家族の皆さんが避難所生活を強いられている状況の中で大変な活躍でありました。心より賞賛いたしたいと思います。

新年の酉年は、何でもとりに行くという積極的な姿勢が好ましいのかもしれない。酉年は自己の手と能力で掘り当てる、そして採し当てる運勢であるといわれております。神武景氣もいざなぎ景氣もともに酉年でありました。2005年の年頭に際し、益々厳しい社会情勢の中ではありませんが、加盟団体の皆様にご協力とご理解をいただきながら、責任団体として一層努力してまいりたいと思っております。



幻の婦人委員会親睦登山 揺れの顛末

婦人委員長 山田 智 子

座っていた右後方で空気がサワサワと動いた。不気味だった。遠くからドッドと音が近づいてくる気配がして、大型ダンブが何十台も向かって来るような、大きな音に感じられるまでほんの一瞬だった。山が崩れて来たのではなにかと反射的に身構えた時、ものすごい揺れが来た。「地震だ」とみんなが叫んだ。最初の揺れはお天気祭りの乾杯がすんだ直後だった。御馳走が並べられているテーブルに力を入れて両手をつき、揺れの収まるのを待ったが、電灯も消え、余震もすぐに来た。

平成16年10月23日の夕方6時頃、私は6人の仲間と銀山平の伝之助小屋の大広間に居た。婦人委員会の親睦登山「銀の道」を明日に控え、前泊をしていた日の、あの中越大地震であった。物が落下したり倒れたりしなかつたせいか、皆さん落ち

後9時頃、救われた！瞬間的に公衆電話が通じたのだ。三回目に悠峰山の会の矢澤さんにつながり、皆さんへの連絡をお願いすることが出来た。本当にはっとした思いだった。余震は続き、空気の動きや山鳴り、揺れは恐怖であった。この夜の伝之助小屋は、私たち県山協の7名、平ヶ岳や駒ヶ岳などの百名山を目指す東京方面からの20数名が宿泊していた。大半の人は各自の部屋に入ったが、私たちは大広間で携帯ラジオから離れることが出来ず、ストーブを囲んでいた。県山協の男性3人は、暖まらない炬燵で封を切った一升瓶を空にする余裕だった。午後11時過ぎ、布団にもぐったが、二階の揺れはものすごくいもので寝付かれなかった。サワサワと不気味な空気の動きは前兆で、ドッドと迫り来る山鳴りは、本当に山が崩れて来るかに感じられ、その後にはグツツと来て揺すられる順序が寝ていると鮮明に分かった。

翌朝は皆さん早起きで、広間のラジオを囲んでいた。山登りどころではない。シルバールインは土砂崩れ箇所があり閉鎖されているが、通してもらえるとのことで、朝食を済ませると帰り仕度を始める。水を満タンにすると伝之助さんに見送られて出発。ひとまずシルバールインを抜ける。地震の妻さをいたる所で目にし、あの揺れだったもんなーと、恐怖の一夜が思い出され

た。こつちも駄目、あつちも駄目と迂回ばかりで、帰路への不安を募らせながら、通行可能な道を捜した。派出所や交通整理の人からも確実な情報を得られず、最終的に、十二峠を越え、松之山温泉へ安塚町へ柿崎町を経由して日本海へと走った。午後2時、柏崎の海岸でここまで来ればもう帰ることが出来るからと、ようやく昼食の停車となる。自衛隊、電力会社、コンビニなど、支援隊の幕や表示をした車両が、私たちの脇で渋滞していた。後で私達が抜けて来たルートは、唯一被災地へ通じていた道であったことを知った。走行中余震が来ると、パンクしたような、一瞬キュッとなることも初体験だった。昼食後は、それぞれの方向に分かれて帰ることにになり、気を付けて帰りましょうと言いついて出発した。結局、9時間かけて帰宅。まず、伝之助さんに報告し、背中ザックを下ろした。我が家の留守番電話もパニック状態で、ファックスの用紙も散らかっていた。按じて電話を下さった方々の電話番号が30数件も記録されており、大勢の方々に感謝であった。順次、お礼の電話やファックスの送信を済ませ、時々来る余震を感じながら慌しい夜になったが、無事帰宅できたことを喜んだ。あらためて、地震で電話がつながりにくいなか連絡をして頂いた悠峰山の会の矢澤さんにお礼申し上げます。また、準備のため前泊し、地震に遭遇された楡井さん、丸山さん、首藤さん、桜井さん、井口さん、浜田さんご苦労様でした。なお、婦人委員会親睦登山「銀の道」を、今年10月2日に再度実施いたしますので、皆さんの参加をよろしくお願いたします。

賛助会入会のお願

新潟県山岳協会では、賛助会員を募集しております。

当協会は登山を通じ、県民体育の向上と加盟団体相互の親睦融和を図ることを目的としております。各委員会では個々の事業を実施するに当たって、加盟団体からの分担金と受益者負担によって賄っておりますが、現状では大半の事業で、十分な財源を持って実

施されているという状況ではなく、場合によっては、ご苦労されている担当各位のボランティアによって活動しているのが実情であります。

新年に当り、より協会の活動を容易にするため、各位のご理解と趣旨へのご賛同を賜り、多数の賛助会へのご入会をお願い申し上げます。

「新潟県山岳協会賛助会員に関する内規」

第3条 本協会は、賛助会員

について次の通り処遇する。

(1) 本協会機関紙「新山協ニュース」及び「賛助会員名簿」を発行のつどそれぞれ送付する。

(2) 入会した時に「新山協ニュース」紙上に氏名等を発表し、

広く普及を図る。

第4条 賛助会員は、規約第19条2項の規定に基づき会費を納入するものとする。

この内規は平成14年1月19日から施行する。

第1条 新潟県山岳協会規約（以下「規約」という）第4条第4項に規定する賛助会員については本内規によるものとする。

第2条 賛助会員は、本協会の目的、事業に賛同する団体及び個人で理事会の承認を得たものとする。



高谷池から第四紀妙高・焼の火山にはさまれた第三紀ひん岩の火打山

山と岩石

さわがに山岳会 小野 健

④ 百名山の地質展望③

日本列島の背梁山脈の一部を形成する飛騨山脈（北アルプス）は、その基盤が古生代・中生代の附加体地層（プレート活動により付加）より成っています。

最古の古生代青海蓮華変成岩（飛騨外縁帯）の白馬・槍ヶ岳鞍部、中生代ジュラ紀の火成岩が立山・黒部五郎・鷲羽岳、白亜紀火成岩には五竜・鹿島槍・剣・薬師岳があり、常念岳に白亜紀堆積岩（美濃帯）と古第三紀花崗岩が見られます。古第三紀凝灰岩や流紋岩の山には、槍・穂高・笠ヶ岳があります。

北アのジュラ紀～白亜紀の火成岩は、古期花崗岩類が多く、槍穂連峰のように、白亜紀後期～古第三紀前期の火砕流堆積物（溶結凝灰岩）から成り、一大カルデラの名残ともいわれています。

このように、北アの主峰は古生代、中生代・新生代前紀の地層が隆起した造山帯で、第四紀火山の山は、乗鞍火山帯に属する焼・乗鞍・御嶽山の三山にすぎません。

海外・国内旅行、主催・手配



ユニオン航空サービス

国土交通大臣登録旅行事業SOS号 JATAF号 (社) 日本旅行業協会会員

本社 新潟県長岡市幸町1丁目3番5号

<http://www.uks.co.jp>

- 長岡営業所 〒940-0084 長岡市幸町1丁目3番5号 ☎ (0258)33-7123
一般旅行業取扱主任者 森 規樹
- 新潟営業所 〒950-0916 新潟県長岡市山3丁目2番11号 ☎ (025)246-2266
一般旅行業取扱主任者 中島 登



◇賛助会費
 年額 一万円
 申込み・問合せ
 総務委員長 七沢恭四郎
 〒943-0154
 上越市稲田4-12-31
 TEL/FAX 025-523-7661

平成16年度
冬山技術講習会の
開催について

次のとおり冬山技術講習会を開催いたしますので、技術の向上と事故防止のため、奮ってご参加いただきますようよろしくお願いいたします。

期日 平成17年2月19日(土) ~ 20日(日)

会場 受付・宿泊 上越市

下馬場多目的研修センター

(上越市大字下馬場315-1)

現地研修 〃 青田南葉山

講師 「雪崩について」

後藤正弘(新潟県山岳協会)

理事、高田ハイキングクラブ)

日程

〇2月19日(土)

16時 受付

16時30分 開会式

講義「雪崩について」

18時30分 夕食・懇親

21時 就寝

〇2月20日(日)

6時 起床・朝食

7時 移動

8時 現地実地研修

9時30分 登山開始

15時 下山後閉会式、解散

参加費 一人1,000円

装備 食料(19日夕食、20日

朝食、昼食、行動食等)、

寝袋、冬山登山装備(山ス

キーまたはわかんじき)、

雪崩捜索装備(雪崩ビーク

ン、プロップ(ゾンデ棒)、

シヨベル

※お持ちの方のみご持参くだ

さい

申し込み 2月15日

〒950-0081

新潟市豊1-11-21

阿部信一方

新潟県山岳協会指導技術委員会

電話 025-273-1572

FAX 025-273-1588

e-mail: abcn@po.next.ne.jp

山岳共済加入のご案内

誰もが遭難事故を起こそう

と思ひ山に登っている訳では

ありませんが、天候の急変や

アクシデントで事故に遭う場

合もあります。万が一の場合

に備え、日本山岳協会山岳遭

難共済保険への加入をお願い

します。

補償内容と掛け金の概要は

下表のとおりです。

また、4月からは、一般共

済に高校生用も用意されます

ので、ご利用ください。

山 岳 遭 難 共 済

	契 約 基 本 タ イ プ					
	高校生	A	B	C	D	E
死亡・後遺症	150万円	180万円	200万円	300万円	400万円	1000万円
遭難捜索費用	100万円	200万円	200万円	250万円	350万円	500万円
個人賠償責任			1億円	1億円	1億円	1億円
会 費	3,000円	5,500円	6,200円	8,000円	11,000円	18,000円

保険金額(1日につき)	
入 院	3,300円
通 院	1,000円
追 加 会 費	4,000円

※入院保険金・通院保険金を付帯する場合は、4,000円が各コース会費に加算されます。

※上記各コースには、入院・通院の保証は付帯されません。

特 別 共 済

タ イ プ	I 型	II 型
会 費	3,000円	6,000円
死亡・後遺障害保険金	300万円	300万円
救援者費用保険金	300万円	300万円
個人賠償責任保険	1億円	1億円
入院保険(1日につき)	2,000円	4,000円
通院保険(1日につき)		1,700円

海 外 登 山 共 済

死亡・後遺障害	100万円
救援者費用	500万円
個人賠償責任	1億円
追 加 会 費	10,000円

※海外登山共済は、この保険単独では加入できません。

登山・アウトドアの専門店

ICI 石井スポーツ
新潟駅前店

新潟市東大通2丁目5番1号 ☎(025)243-6330(代)

登山・ハイキング・クライミング
テレマーク&山スキー

Mountain & Outdoor
Parr Mark

パーマーク
長岡市西宮内2-97(長岡市役所裏通り)
TEL0258(37)1200・FAX0258(33)1164
●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜定休

http://www.parrmark.co.jp